谷戸の風 ⑦1

老友

山内静夫

昭和31年（1956）年に、魯迅没後20年祭に中国作家協会に招かれた長与善郎さんと、父・里見弴は一カ月の中国周遊の旅に出た。長与さんが一番魯迅と親しかったのではないか。長与さんは奥様とお嬢さんが同伴され、私は父のカバン持ちで初めて外国へ行った。同行できたということがものすごくうれしかった。いい旅で生涯記憶に残るだろうと思った。

長与さんは気楽な方で話題が尽きなく、お花が大好きで揚子江の船中でも花札をなさっていた。父・山内英夫が作家・里見弴であることを認識したのは、この旅であったように思う。作家同士でどんな話をするのかと思ったら、ほとんど二人の間で魯迅の話は無かった。同級生同士という旧友の会話を楽しんでいた。そういう雰囲気から気楽な旅をする作家同士を間近に見た。

木版画　藤本宿

長与さんと父は学習院の同級生で共に「白樺」の同人であった。「白樺」は、志賀直哉と武者小路実篤が明治40年（1907）10月18日に鵠沼の旅館東屋で明治43年（1910）春の発刊を話し合ったのがきっかけとなり、学習院の学生の集まりで、日本の文壇活動の中で特殊な人たちだった。

松竹大船撮影所のスタジオでは、昭和30年代に入って「白樺」の作家の作品が映画化されていた。長与善郎原作「青銅の基督」昭和30、監督・渋谷実。志賀直哉原作「正義派」昭和32、監督・渋谷実。「いたづら」昭和34、監督中村登。里見弴原作「彼岸花」昭和33、監督・小津安二郎。

父は文学で、小津監督は映画で、それ程深い友情はなかったが、「彼岸花」という作品を作り上げたことから二人の友情は急速に深まった。私の人生が大きく変わったのはこの時からであった。

海岸でマイクロプラスチック採取
第一中学生を風致保存会が指導

卒業を前にした中学生に身近な自然の保全を体験してもらおうと鎌倉風致保存会（会員約400人・兵藤芳朗理事長）が2月19日、鎌倉市立第一中学校で出前授業を行った＝写真。

3年生約70人は、海と山が近い鎌倉の自然の特徴、マイクロプラスチック問題、環境保全のために一人ひとりができることなどを学んだ後、校舎から近い材木座海岸の和賀江島前に集合。同会の指導で座学での知識を活かしたごみ拾いに取り組んだ。

前半はさまざまなごみを分別しながら拾い、後半は砂をふるいにかけてマイクロプラスチックの採取に取り組んだ。

生徒たちは「有害物質が最後には人間に返ってくることがわかった」「自分たちの世代で解決しなければならないと思う」など身近な問題として捉え、山本凛澄（りずむ）くん（15）は「鎌倉の自然が残っているのは50年前に立ちあがった人たちがいたから。私たちも地域に根ざした自然を守っていきたい」と挨拶した。

兵藤理事長（70）は「若い世代が見逃しがちな問題を取り上げた。この経験を今後に活かしてほしい」と中学生との活動に意義を深めていた。

同会は鎌倉の緑の保全を目的に1964年に設立された日本初のナショナルトラスト団体。毎年2月から3月にかけて市内の市立中学校と協力した環境保全活動を約20年継続している。同校のほか、腰越中は広町緑地、深沢中は鎌倉中央公園の整備など今年は5校で実施する。（K）

【寄稿】

留学生を交えてなごやかに
鎌倉稲門会70周年新年会

鎌倉在住の早稲田大学同窓生が集う鎌倉稲門会（会員320人、兵藤芳朗会長）の新年会が2月1日、鎌倉市内で開かれた。今年は当会創立70周年にあたり、80歳以上16人を含む105人が参加し、盛況だった＝写真。

中国、韓国、台湾、アメリカ、イギリス、インドネシアからの母校の留学生10人が参加し、初めて見る豪華な日本料理に感激しながら会員たちと交流し、会話が弾んだ。

同好会・中国文化研究会の中国語による合唱には中国と台湾の留学生も加わって盛り上がり、校歌を参加者全員で力いっぱい歌い、絆を深めた。

留学生たちは新年会の前に、鶴岡八幡宮や鎌倉国宝館を訪れている。

留学生から「日本の伝統文化に触れて素晴らしい経験だった」の声があり、「また鎌倉を訪問したい」と全員が話していた。（鎌倉稲門会会長兵藤芳朗）

文学つれづれ ⑱1

吉川英治『宮本武蔵』（八）

赤羽根龍夫

武蔵と吉岡一門との実際の戦いはどんなだったのであろうか。『小倉碑文』を見てみよう。二度の戦いに敗れた後、

吉岡一門冤（えん・恨み）を含み、密かに語って云わく、兵術の妙を以て敵対すべきところに非ず（剣術ではかなわない）。はかりごとを巡らし、事を兵術に寄せ（試合だと偽って）洛外下り松の辺りに会す）。彼の門生数百人、兵仗弓箭（弓矢）を以てたちまちこれ（武蔵）を害せんと欲す。

吉岡一門はどんな謀（はかりごと）をめぐらしたのか。清十郎の仇討ということで子の赤七郎を名義人に立て、子供なので助太刀を2、3人つけると言ったに違いない。

但し一門の名誉がかかった戦いになるので、門人たちが見届けに参集するが手は出さないと申し出たであろう。大勢で戦えば京都所司代の取り締まりの対象となるので、試合の支度は又七郎と助太刀だけにして門人達は平服で集まる算段であったろう。

東宝映画『宮本武蔵』（1954年）＝配役は武蔵・船敏郎、お通 八千草薫

「数百人」集まったとあり、大げさと思われるかもしれないが、私は真実を表現していると思う。

武蔵は日頃から「知機の才あり」、機（状況）を見る才能があったので、介添えの2、3人ではなく大勢が懸かってくることを察知していた。逃げても不名誉なことではない。吉岡方はそれを望み予測していたに違いない。武蔵が決闘から逃げたという大義名分が必要だった。しかし武蔵は逃げないで大勢が待ち構えていることに勝機を見出した。なぜだろうか。

吉岡勢は戦う気のない「散衆（烏合の衆）」であるから、敵の大将ときれた清十郎の子の赤七郎だけを倒して自分の勝利を保証し、後は動揺して打ち懸る周りの4、5人を倒し、後は比叡山の麓に広がる藪の中に逃げ込むことに徹すればよいと判断したのである。

武蔵は夜の明けきらないうちに千本松に急いだ。

お通は恐らく斬り死するであろう武蔵に一目会おうと病身をおして出かけた。やっとのことで出会った二人は万感の思いで空を見つめた。

「雁が…」……

「武蔵さま」

「斬り死にしたら私も生きていないつもりです」と云うお通に武蔵は初めて自分のお通への思いを述べる。

わしはそなたが好きだ。一日でも思わぬ日のなかったほど好きだ。…なにも可も捨ててともに暮らして終わりたいとどれほど思い悩んだかもしれない。…そなた以上に好きな、剣というものがなかったら

武蔵はこれまで秘めていた思いのたけを一心に告白する。大地に伏して泣いていたお通は、

…知ってます！そ、そんなことぐらい…そういう貴方であるぐらいなこと…し、しらないで…知らないで恋をしてはまいりませぬ

夜がすっかり明けようとしていた。武蔵はお通の「心のうちだけでも、妻としてゆるして下さいますでしょうね」という言葉や、世間の人は自分を不幸と云うであろうが、自分は少しも不幸はない。自分は武蔵が死んだら後を追うが、

死の夜明けが、楽しみで待ち遠で、朝の小鳥の音の中に死んでいく身が…花嫁のようにいそいそと待たれてなりません

と云うお通の言葉には耳をかさず、武蔵は下り松へと急いだ。

宮本武蔵はこれまで何度も映画やテレビで映像化されている。最近では市川海老蔵と米倉涼子で放映された。中でも中村錦之助と三船敏郎の『宮本武蔵』が代表的な作品であろう。お通は入江若葉と、最も日本的な女性と愛された国民的大女優・八千草薫である。

（神奈川歯科大名誉教授）

鎌倉朝日歌壇

香山　静子　選

三千歩歩きて片瀬山の辺に立てば眼下に母校静まる　片瀬　中村　香

特別の感慨を抱いて母校を眺める作者が見える。百人を超える園児は紙しばいの始まりを待つ体育座りに　笛田　入野　裕江

期待を胸に始まりを待つ園児らの様子を描写。汗の飛び肌のぶつかる鈍き音両国の地に幟はためく　葉山町　近藤美知子

相撲で賑わう両国の様子が目に浮かぶ。鵯はブロッコリーの葉を啄みわれに実だけを残しおきたり　逗子市　湊　美根子

一握の灰となりたる相聞の天にのぼるや左義長の夜　辻堂　柳　蒼

人気なき本堂の赤き毛氈を台湾リスは駆け抜けてゆく　大船　小笹岐美子

知り合ひに患ふ人の増えゆけど紅梅は去年と違はずに咲く　今泉台　下田　和夫

引潮にいそしぎ鳴けば夕映のなぎさに寄せる春のさざ波　葉山町　近藤　純

マスクしてマスク求むる人の波売り切れとかにみな殺気立つ　藤沢市　一色千穂子

北山に時雨が降りし山際の霧がたなびく里山の景　手広　高口　道宏

スペイン風邪の生き残り子孫百年経て新型という敵と闘う　藤沢市　三浦　和子

鎌倉朝日俳壇

星野　高士　選

〈天〉江の島のたちまち消ゆる春の雪　本鵠沼　森田　順子

春の雪はすぐに消ゆるのは儚い。俳句で出会った一期一会をうまく伝えてくれた。

〈地〉白き凧揚がると見えて芝を這う　藤沢市　三浦　和子

風も芝を這っている時もあると言う写生から人生観へと無理なく表現できていた。

〈人〉古新聞にふくらむ鞄春近し　植木　風見　玲子

中七の表し方で、いかにも春が近い共有感を持てた。

荒庭に鳥の鳴き声日向ぼこ　今泉　小林刀羊子

場面の切り取り方が成功していた。季題の摺るぎなさも見処の作品。

余生とはこんなものかと山笑ふ　笹目町　出蔵かおる

山笑うで作者の生き生きとした現在を伝えてくれた。

巫女さんの髪の飾りに風光る　片瀬　國安　佳子

風光るも全体をうまく包んでくれた季題であった。

山茶花やうす紅の色を敷く葉なき枝にただ一輪の冬薔薇　藤沢市　青木寿美子

厄災を絡めて祓うどんどの火　腰越　大川　昭子

啓蟄の水に和める空の色　腰越　小河　哲美

凍て付くも剣道場の竹刀音　逗子市　塩谷あい子

松かざりあるやなしやの新興地　梶原　吉田　健二

今見ごろ八幡宮の冬牡丹　腰越　松原　薫

建てかけの家を見に行く春隣　手広　高口　道宏

残照に染めあがりたる枯野かな　材木座　羽賀　一男

豆撒やコロナウィルス鬼は外　笛田　上田　満喜

あやとりの小指色めく成人の日　城廻　小美野京子

春雨に大地の精は目覚めけり　岡本　鳴海　紀政

犬ふぐり陽のあるうちの医者通ひ　城廻　増田　重雄

かたかごの花や四方山里住まひ　藤沢市　一色千穂子

鎌倉朝日 発刊協力グループ
朝日新聞サービスアンカー

ASA鎌倉小町
材木座一―一〇―三七―一〇三
☎22―3236

ASA鎌倉中央
長谷一―一九
☎22―1004

ASA北鎌倉
大船四―二一―二〇 アーバンハイツ1F
☎38―7322

ASA鎌倉深沢
常盤二四七―二
☎31―1444

ASA大船西部
玉縄一―一四―一
☎46―6068

ASA大船南部
大船四―二一―二〇 アーバンハイツ1F
☎38―7322

ASA大船中央
大船四―二一―二〇 アーバンハイツ1F
☎38―7322

ASA腰越
藤沢市鵠沼藤が谷二―一―三
☎0466―27―8716

ASA藤沢南部
藤沢市鵠沼藤が谷二―一―三
☎0466―27―8716

ASA藤沢東部
藤沢市弥勒寺三―二―一一
☎0466―22―7409

ASA湘南鵠沼
藤沢市鵠沼海岸二―一―一一
☎0466―34―6924

ASA逗子
逗子市久木一―一―一
☎0466―871―2536

ASA東逗子
逗子市沼間一―四―四
☎0466―871―6845

ASA葉山
三浦郡葉山町堀内一八〇八
☎046―875―0515

ASA金沢八景
横浜市金沢区六浦一―二一―一三
☎045―782―2859

ASA大船北部
横浜市栄区笠間四―一一―九
☎045―891―0986